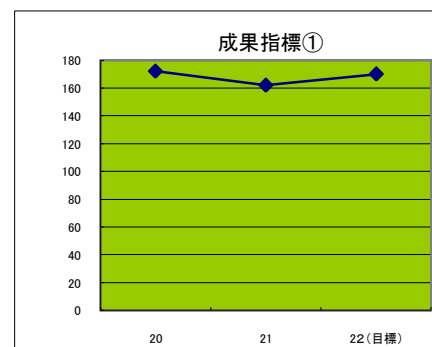
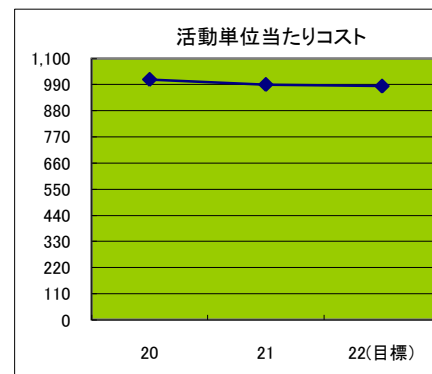


事務事業名		青少年児童センター管理運営事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	10	教育費
					項	5	社会教育費
					目	8	青少年児童センター運営費
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち	事業	2	青少年児童センター運営	
	施策(節)	3	青少年の健全育成				
	施策の方向	(3)	社会参加・交流機会の充実				
関連する計画等				作成部署 教育委員会事務局生涯学習室社会教育課 (青少年児童センター)			
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先			
	青少年児童(市民)			072-958-1111 内線 7897			
	意図(どういう状態にしたいのか)						
青少年児童の健全で豊かな交流を通じて、健康を増進し豊かな情操を培い、教育・文化活動の育成とスポーツ活動の推進を図る							
事業の内容	1. 青少年学習活動推進事業・・・児童クラブ「コスモス」、各文化教室、おもしろ教室、サッカー教室等						
	2. 子育て支援事業・・・親子体操、子育てセミナー、子育て相談、子どもすこやか広場(図書)の整備等						
	3. 自主活動支援事業・・・中学生学力向上教室、中学生スポーツ教室、夏休み子ども教室、ああす事業、校外学習等						
	4. 情報収集・提供事業・・・児童センターだより、コスモスだより、広報等						
	5. 貸館事業						
根拠法令等		羽曳野市立青少年児童センター条例					
事業開始時期		☒ 昭和 59 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている				終了年度	平成 年度
事業開始時からの状況変化		当初は、地域の子どものためのセンターであったが、平成14年の地対財特法の失効、学校週5日制の実施に伴い、子どもたちの安全で安心な居場所づくりのための活動拠点となった。					
市民や議会の要望		子育てセミナー・子育て相談・親子体操等について、今後も継続して実施するように要望があった。					
実施手法		☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☒ 市外郭団体委託 名称 ((社)シルバー人材センター) ☐ 民間委託 ☐ その他				委託内容	

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		18,917	15,520	14,113
人件費【2】 (千円)		43,800	42,000	32,400
職員数	正規職員	4.00 人	4.00 人	4.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	5.00 人	5.00 人	1.00 人
	臨時職員	1.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	97.00 時間	107.00 時間	100.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		62,717	57,520	46,513
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)	2,272		
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	60,445	57,520	46,513
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 利用者数 (述べ人数) 人		61,989	58,086	47,300
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		1,012 円	990 円	983 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		524 円	484 円	391 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
	①	(式)	1日当たり利用者数	年間利用者を開館日数で割り、目標は前年度実績の5%増に設定	目標	169	180	達成率(%)	90.0%	170
					実績	172	162			
	②	(式)			目標			達成率(%)		
					実績					

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	子どもたち等の活動拠点（居場所）づくり「いつでも・だれでも」利用できる。児童の集団及び個別指導を推進するための必要な事業である。

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	青少年児童の健全育成を総合的に推進するための拠点施設で、児童の集団活動及び子育て不安や悩み相談、健全な遊びを通じた指導及び体力増進などが不可欠である。学校と行政とが共に協力し、進めていく事業である。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☐	☒	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	職員の配置体制に基づき、効率的な事務執行と効果的な市民サービスができるよう、子どもたちが自主的に活動したり、学んだりすることができる受け皿の創出や幅広い分野別にそれぞれ活動を推進など行っている。民間活力の活用などを図っても人件費・事業費の抑制に繋がらない。
	受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☐	☒	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	事業効果は高い。児童を中心とする児童クラブなど地域の放課後課題に対応し、育てる環境を充実させ地域での自主的な学習活動が定着して広がりつつある。また、親子体操等子育て支援事業も好評を得ている。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☒	☐	事業に参加者等からアンケートや感想を収集し、市民の多種多様な学習ニーズに対応しています。今後においては、市民と協働ができる事業も考えていきたい。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	子どもたちに対し、地域の協力を得て、学習習慣活動やスポーツ・子育て講座等の体験活動を行う取り組みなど成果目標は達成が出来た。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	各事業「学習活動推進・子育て支援・自主活動支援等」に市民のニーズが高い中よく職員が創意と工夫を持って積極的に事業に取り組むことが出来た。セミナー等は限られた予算の範囲で計画のとおり中身の濃いセミナー等を実施した。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行 革 本 部 評 価	各事業において、地域の人々が参加して喜んでもらえる事業を限られた予算で事業を最大の効果が発揮できるようにしていきたい。子どもの複雑・多様化したニーズに応じた児童の活動内容をなるべく、一層の充実を進めていく必要がある。	
	総合評価	評価理由・意見
	☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	